

2025年度入学生 幼児教育学科カリキュラムマップ

【幼児教育学科のディプロマポリシー】											
幼児教育学科は、全学共通のディプロマ・ポリシーに基づき、知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力、主体性・多様性・協働性が、次の基準に達している者に短期大学士（幼児教育学）の学位を授与する。											
【知識・技能】											
1-1 現代の幼児教育・保育を支える幅広い教養や知識・技能を有している。											
1-2 子どもの年齢や発達過程を理解し、総合的な心身の発育を促すための知識・技能を有している。											
【思考力・判断力・表現力等の能力】											
2-1 幼児教育・保育の実践を行うために必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力の基礎を有している。											
2-2 幼児教育・保育に関する課題解決に向けて、様々な情報を統合し、論理的な思考や創造的な活動ができる。											
2-3 保育者として、また社会の一員としての自覚に基づいた創造的能力を備えている。											
【主体性・多様性・協働性】											
3-1 幼児教育・保育に関わる熱意と責任感、倫理観を有している。											
3-2 幼児教育・保育に関わる様々な人々とコミュニケーションをとり、連携・協働することができる。											
3-3 幼児教育・保育に関して、生涯にわたり学び続ける姿勢を有している。											
【幼児教育学科のカリキュラムポリシー】											
幼児教育学科は、学生がディプロマ・ポリシーに定める基準に到達できるよう、次のように教育課程を編成する。											
【教育課程の編成】											
保育者にふさわしい能力を有するために、専門的な方法論と知識及び技能を体系的に学ぶ。1年次には初年次教育を柱として、外国語活用能力や情報処理能力、健康や運動に関する知識や技能など短期大学士として身に付けておくべき資質の基礎を養う科目を開講している。専門科目は、1、2年次にわたって開講され、その中に幼稚園教諭二種免許状取得に関する科目、保育士資格取得に関する科目、加えて認定ベビシッター資格を得るための科目を設置する。											
知識の活用能力、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、表現力、コミュニケーション力などを総合的に学修し、研究やディスカッションを実践的に積み上げる参加型の少人数授業を開講する。											
保育実習、教育実習を1年後期授業から2年後期授業にかけて行うため、それぞれの時期に合わせて実習前後の授業を開講する。											
			幼児教育学科の学修成果								
			(◎＝達成のために、特に重要な事項 ○＝達成のために、重要な事項)								
			1-1	1-2	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3	
分類	授業科目名	授業科目の到達目標	現代の幼児教育・保育を支える幅広い教養や知識・技能を有している。	子どもの年齢や発達過程を理解し、総合的な心身の発育を促すための知識・技能を有している。	幼児教育・保育の実践を行うために必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力の基礎を有している。	幼児教育・保育に関する課題解決に向けて、様々な情報を統合し、論理的な思考や創造的な活動ができる。	保育者として、また社会の一員としての自覚に基づいた創造的能力を備えている。	幼児教育・保育に関わる熱意と責任感、倫理観を有している。	幼児教育・保育に関わる様々な人々とコミュニケーションをとり、連携・協働することができる。	幼児教育・保育に関して、生涯にわたり学び続ける姿勢を有している。	
領域及び保育内容の指導法に関する科目	領域に関する専門的事項	幼児と健康	①子どもの健康と保育の意義について理解する。 ②子どもの心身の発達について理解する。 ③健康的な生活を送るための必要条件(生活習慣等)について理解する。 ④遊びと運動の展開について理解する。 ⑤事故の対応や安全保育について理解する。	◎		○					
		幼児と人間関係	①領域「人間関係」のねらい及び内容について理解できるようになる。 ②幼児の人間関係の発達に関する基礎理論がわかるようになる。 ③事例や映像を通して、乳児期から幼児期の発達を踏まえた人との関わりの道筋が理解できる。		○	○	◎				
		幼児と環境	①子どもを取り巻く環境や、子どもの発達と環境との関わりを理解することができる。 ②領域「環境」の指導に必要な感性を養い、実践力の基礎となる知識・技能を身に付けることができる。	◎		○					
		幼児と言葉	①子どもの言葉を豊かに育むための援助や関わり方を理解できる。 ②人間としての成長や文化の発展について考えることができる。 ③集団の場で、周りの人とコミュニケーションがとれるようになる。		○	○	◎				
		幼児と表現Ⅰ	①幼児の遊びや生活における音・音楽を通した表現の姿や、その発達を理解する。 ②様々な表現の基礎的な知識技能を生かし、協働して表現することを通し、幼児の音楽表現活動に展開させることができる。		○	◎			○		
		幼児と表現Ⅱ	幼児の造形表現とその発達について理解するとともに、幼児の感性や創造力を豊かに育むための実践力を身に付けことができる。		○	◎			○		
	保育内容の指導法	保育内容の指導法(健康)	乳幼児期における子どもの心身の健康に関わる領域や知識について学ぶとともに、具体的な楽しい遊びを探索し、模擬保育を通して保育者としての実践力を身に付けることができる。		◎	○					
		保育内容の指導法(人間関係)	①乳幼児が人とのかかわる力を身に付けていく過程や、発達の道筋をとらえるなど「人とのかかわる力の基礎」を理解することができる。 ②幼稚園教育要領等に示す領域「人間関係」のねらい・内容・内容の取扱いについて理解できる。		◎	○					
		保育内容の指導法(環境)	①領域「環境」のねらいや内容を理解することができる。 ②幼児の発達や学びの過程を理解し、保育を構成し実践していく力を身に付けることができる。		◎	○					
		保育内容の指導法(言葉)	①子どもが言葉を獲得する過程や、一人一人の発達に応じた適切な援助を理解できるようになる。 ②子どもが豊かな言葉を育むために、保育者の役割を理解できるようになる。 ③言葉遊びなどの実践を通して、周りに人とのコミュニケーションがとれるようになる。		◎	○					
		保育内容の指導法(表現Ⅰ)	①領域「表現」のねらい及び内容、乳幼児の音楽的発達について理解する。 ②様々な子どもの音楽的表現活動や教育方法、教材の活用法を理解し、実践する力を身に付ける。 ③指導案作成と模擬保育を通して、音・音楽を通した保育を構想することができる。		◎	○					
		保育内容の指導法(表現Ⅱ)	①領域「表現」の表現のねらい及び内容について理解できる。 ②子どもの発達と造形表現活動の特性について理解できる。 ③教材や情報機器の活用方法を理解し、多様な表現方法に触れ、幼児の表現活動に必要な基礎知識と技能を身に付けることができる。 ④指導案の構成を理解し、指導案の作成及び模擬保育の実践を通して、表現活動を構想することができる。		○	◎					
		保育内容の指導法(表現Ⅲ)	①生活の中で感じたことや考えたことを身体の動きで表現できるようになる。 ②模擬保育を通して、音楽、遊具、用具などを使った身体表現やリズム遊びのための実践力を身に付けることができるようになる。		○	◎					

2025年度入学生 幼児教育学科カリキュラムマップ

分類	授業科目名	授業科目の到達目標	幼児教育学科の学修成果							
			(◎＝達成のために、特に重要な事項 ○＝達成のために、重要な事項)							
			1-1	1-2	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3
			現代の幼児教育・保育を支える幅広い教養や知識・技能を有している。	子どもの年齢や発達過程を理解し、総合的な心身の発育を促すための知識・技能を有している。	幼児教育・保育の実践を行うために必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力の基礎を有している。	幼児教育・保育に関する課題解決に向けて、様々な情報を統合し、論理的な思考や創造的な活動ができる。	保育者として、また社会の一員としての自覚に基づいた創造的能力を備えている。	幼児教育・保育に関わる熱意と責任感、倫理観を有している。	幼児教育・保育に関わる様々な人々とコミュニケーションをとり、連携・協働することができる。	幼児教育・保育に関する、生涯にわたる学び続ける姿勢を有している。
教育の基礎的理解に関する科目	教職原論	①求められている教員の役割や職務内容について理解をできるようになる。 ②教員としての資質や熱意、教育観をもつことができる。		◎				○		
	教育原理(教育史及び社会的、制度的又は経営的事項を含む)	①教育概念や教師－子ども関係について、基本的な知識を身に付けている。 ②西洋や日本の教育史や教育思想について、基礎的な事項を理解している。 ③授業論や学び論について、概念的に把握している	◎					○		
	教育心理学	①教育心理学の基本用語を理解し、正確に覚えることができる。 ②幼児・児童・生徒の発達や行動を教育心理学的な観点から解釈し、適切な支援と指導ができるようになる。	◎	○						
	特別支援教育	特別の支援を必要とする幼児への理解と組織的な対応や知識、支援方法について理解することができる。	○	◎				○		
	教育課程論	教育課程についての意義や編成の方法およびカリキュラム・マネジメントを行う意義について理解することができる。		◎	○			○		
	教育課程論演習	①教育課程、指導計画についての理論と実際を学び、カリキュラム・マネジメントについての理解を深めることができる。 ②演習を通して、幼児の発達の捉え方や遊びを中心とした指導について理解できるようになる。 ③幼児の主体性と保育者の意図を捉えた保育指導案を立案することができる。		○	◎			○		
科 導 間 道 目、等 徳 教 の、育 指 総 相 導 合 談 法 的 等 及 な に 学 関 生 習 す 徒 の 指 時	教育の方法・技術	①幼児教育の方法・技術の基本を学ぶことができる。 ②幼児理解を深めながら保育者としての姿勢や態度を身に付けることができる。 ③ICT等の情報機器及び教材の活用についても最新の知識を得ることができる。	◎		○					
	幼児理解の理論・方法	幼稚園における幼児の生活や遊びの実態に即して、幼児の発達や学びおよびその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理や対応の方法を考えることができるようになる。		◎	○					
	教育相談の理論・方法(カウンセリングを含む)	①幼児の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉えることができる。 ②支援するために必要な基礎的知識(カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む)を習得することができるようになる。		◎					○	
教育実践に関する科目	教育実習指導	①教育実習の意義・目的・実習生としての心構え等を学び、幼稚園実習に向けてきたいをもつことができる。 ②幼児理解や観察の視点と方法、教材研究等を行い、幼児の具体的なイメージや保育実践力を身に付けることができる。 ③幼稚園参観や研究保育の映像記録の分析、模擬保育によって、幼児の遊びや生活を理解できるようになる。			○	◎		○		
	教育実習	①各幼稚園での教育実習を通じて、発達に応じた幼児期の生活や遊びについて理解し、実習記録や指導案の作成に活かすことができる。 ②幼児への言葉かけ、配慮などを実践を通して学び、人的環境としての保育者の役割について理解することができる。 ③組織の中で周りの人とコミュニケーションをとったり、行動したりできる。			○			○	◎	
	保育・教職実践演習(幼稚園) (担当:大西 眞弓、川村 高弘)	①実習で学んだ子どもへの理解や援助、施設の機能とそこで保育者の役割について、自分なりの考えを言葉や文章で表現することができる。 ②使命感や責任感、社会性や対人関係能力など、保育者として必要な資質について学び、周りの人とコミュニケーションがとれるようになる。 ③目指す保育者像に向けて、自己課題を明確にするとともに、保育者としての意識を高めることができる。		○			◎			○

2025年度入学生 幼児教育学科カリキュラムマップ

分類	授業科目名	授業科目の到達目標	幼児教育学科の学修成果 (◎＝達成のために、特に重要な事項 ○＝達成のために、重要な事項)							
			1-1	1-2	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3
			現代の幼児教育・保育を支える幅広い教養や知識・技能を有している。	子どもの年齢や発達過程を理解し、総合的な心身の発育を促すための知識・技能を有している。	幼児教育・保育の実践を行うために必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力の基礎を有している。	幼児教育・保育に関する課題解決に向けて、様々な情報を統合し、論理的な思考や創造的な活動ができる。	保育者として、また社会の一員としての自覚に基づいた創造的能力を備えている。	幼児教育・保育に関わる熱意と責任感、倫理観を有している。	幼児教育・保育に関わる様々な人々とコミュニケーションをとり、連携・協働することができる。	幼児教育・保育に関する、生涯にわたる学び続ける姿勢を有している。
教職関連科目	教育情報処理演習	①エクセルによる基本的な計算処理ができる。 ②エクセルによる基本的なグラフ作成ができる。 ③エクセルによる基本的なデータベース処理ができる。 ④パワーポイントを用いたプレゼンテーションデータの作成ができる。			○					◎
	学科特別演習Ⅰ (担当: 川村 高弘)	①保育にとっての遊びや表現活動とは何かを理解することができる。 ②保育者として遊びや表現活動における実践力を身に付けることができる。	○		◎				○	
	学科特別演習Ⅰ (担当: 小松原 祥子)	①リトミック等保育における音楽遊びを実践し、提案できる。 ②音楽を通して保育実践力を身に付けることができる。 ③イメージを表現することができる。	○		◎				○	
	学科特別演習Ⅰ (担当: 松岡 恵)	①支援者に必要なメンタルヘルスの基礎的知識を習得できるようになる。 ②安定した人間関係を築ける支援者になるためにまず自分自身について理解し、メンタルヘルスのマネジメントについて理解を深める。							○	◎
	学科特別演習Ⅱ (担当: 辻田 美和)	作品制作などの造型表現活動を通して、表現方法や画材についての研究を深め、子どもの楽しく豊かな造型表現活動を支援するための実践力を向上させることができる。			◎				○	
	学科特別演習Ⅱ (担当: 矢野 真理)	①子どもの心身の健康問題について理解を深め、子どもの健康を支援する力を身に付けることができる。 ②運動遊びを通して保育における具体的な援助の方法を身に付けることができる。				◎	○			
	学科特別演習Ⅱ (担当: 大西 真弓)	①演じ方の工夫や表現力を高めること、各自の役割遂行に責任を持つこと、協同する喜びを味わうことから保育者として大事な同僚性を高めることができる。 ②実践を通して幼児理解を深め、子どもへのかかわりや保育の実践力を身に付けることができる。			◎				○	
	音楽A	①ピアノ演奏の基礎力を身に付け、弾き歌いと保育現場に適した楽曲が演奏できるようになる。 ②無理のない自然な発声法で正しく表情豊かに音楽表現することができる。 ③保育者に必要となる音楽の基礎知識とリズム表現の基礎を習得する。	◎		◎					
	音楽B	①ピアノ演奏の基礎と応用力を身に付け、弾き歌いと保育現場に適した楽曲が演奏できるようになる。 ②リズムや音程の基礎を身に付け、ソルフェージュによって基礎的な調を理解し、発展的な歌唱表現を身に付ける。 ③現場でピアノやリズム楽器を用いて表現するための音楽理論を理解する。	◎		◎					
	音楽C	①保育現場での音楽活動のためにピアノの基礎を身に付け、コード伴奏を含めた応用演奏ができるようになる。 ②自分の思いを音で表現できるようになる。 ③弾き歌いのレパートリーを増やし、楽曲の本質を見抜いた表現ができるようになる。	○		◎					

2025年度入学生 幼児教育学科カリキュラムマップ

分類	授業科目名	授業科目の到達目標	幼児教育学科の学修成果							
			(◎＝達成のために、特に重要な事項 ○＝達成のために、重要な事項)							
			1-1	1-2	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3
			現代の幼児教育・保育を支える幅広い教養や知識・技能を有している。	子どもの年齢や発達過程を理解し、総合的な心身の発達を促すための知識・技能を有している。	幼児教育・保育の実践を行うために必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力の基礎を有している。	幼児教育・保育に関する課題解決に向けて、様々な情報を統合し、論理的な思考や創造的な活動ができる。	保育者として、また社会の一員としての自覚に基づいた創造的能力を備えている。	幼児教育・保育に関わる熱意と責任感、倫理的な人々とコミュニケーションをとる、連携・協働することができる。	幼児教育・保育に関する様々な様子にわたって、生涯にわたって学び続ける姿勢を有している。	
保育に関する専門科目	保育原理	①保育の意義や目的について理解することができる。 ②保育に関する法令や制度について理解することができる。 ③保育指針における保育の基本について理解することができる。 ④保育の思想と歴史的変遷について理解することができる。 ⑤保育の現状と課題について理解することができる。	◎					○		
	子ども家庭福祉	子どもとその家族に対する専門職に必要な価値・技術・知識をもつことができる。			◎	○	○			
	社会福祉	①固定観念ではなく、独自の理解のなかで社会福祉の考え方とそのイメージをもつことができる。 ②社会福祉に関わる諸問題、制度、法律などの概要を知ることができる。			◎	○	○			
	子ども家庭支援論	①子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解できるようになる。 ②保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解できるようになる。 ③子育て家庭に対する支援の体制について理解できるようになる。 ④子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解できるようになる。			◎	○	○		○	
	社会的養護Ⅰ	授業終了後、「子どもの最善の利益」のための社会的養護とは何かを、個々人で考えることができる。			○	○	◎	○		
	社会的養護Ⅱ	①子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解できる。 ②施設養護及び家庭養護の実際について理解できる。 ③社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解できる。 ④社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解できる。 ⑤社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解できる。		○			◎	○		
	保育者論	①保育者の役割と倫理について理解することができる。 ②保育者の制度的な位置付けを理解することができる。 ③保育者の専門性について考察し、理解することができる。 ④保育者の連携・協働について理解することができる。 ⑤保育者の資質向上とキャリア形成について理解することができる。	○					◎		
	子ども家庭支援の心理学	①生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期段階の重要性、発達課題等について理解できるようになる。 ②家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達的な観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得できるようになる。 ③子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解できるようになる。 ④子どもの精神保健とその課題について理解できるようになる。	◎		○					
	子どもの理解と援助	①保育実践において、実態に応じた子ども一人ひとりの心身の発達や学びを把握することの意義について理解できるようになる。 ②子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を理解できるようになる。 ③子どもを理解するための具体的な方法を理解できるようになる。 ④子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解できるようになる。		◎		○				
	子どもの保健	①小児の健康の定義を学び、健康の保持増進を図りQOLの向上を目指す実践力を身に付けることができる。 ②小児の発達や生理機能の発達にあわせた適切な保育内容を実践することができる。 ③新生児期、乳児期、幼児期、各期における精神運動機能発達の特徴について正しく理解することができる。 ④小児の健康状態の把握と主な病気の特徴及び予防、対応についての実践力を身に付けることができる。		◎						○
	子どもの食と栄養Ⅰ	①子どもの食と栄養の特性とその重要性を理解することができる。 ②子どもの発達・発達段階に応じた適切な食生活がイメージできるようになる。	◎	○	○					
	子どもの食と栄養Ⅱ	①食育の必要性を理解し、その取り組みについての考えを持つことができる。 ②家庭や児童福祉施設での食事、特別な配慮を要する子どもの食事について、保育者として食と栄養に関する指導の実践がイメージできるようになる。		○	◎	○				
	保育内容総論	①保育所保育指針や幼稚園教育要領等における「保育目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解することができる。 ②保育所保育指針や幼稚園教育要領等の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解することができる。 ③子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景や保育の内容の歴史的変遷等を踏まえ、保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)につなげて理解することができる。 ④保育の多様な展開について具体的に理解することができる。	○		◎					

2025年度入学生 幼児教育学科カリキュラムマップ

分類	授業科目名	授業科目の到達目標	幼児教育学科の学修成果							
			(◎＝達成のために、特に重要な事項 ○＝達成のために、重要な事項)							
			1-1	1-2	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3
			現代の幼児教育・保育を支える幅広い教養や知識・技能を有している。	子どもの年齢や発達過程を理解し、総合的な心身の発達を促すための知識・技能を有している。	幼児教育・保育の実践を行うために必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力の基礎を有している。	幼児教育・保育に関する課題解決に向けて、様々な情報を統合し、論理的な思考や創造的な活動ができる。	保育者として、また社会の一員としての自覚に基づいた創造的能力を備えている。	幼児教育・保育に関わる熱意と責任感、倫理的観を有している。	幼児教育・保育に関わる様々な人々とコミュニケーションをとり、連携・協働することができる。	幼児教育・保育に関して、生涯にわたって学び続ける姿勢を有している。
保育に関する専門科目	乳児保育Ⅰ	①乳児保育の意義・目的と歴史の変遷及び役割等について理解できるようになる。 ②保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解できるようになる。 ③3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解できるようになる。 ④乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解できるようになる。	◎		○					
	乳児保育Ⅱ	①子どもの人権を尊重し、3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解できるようになる。 ②養護及び教育の一体性を踏まえた3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、理解できるようになる。 ③乳児保育における配慮の実践について考察し、実践できるようになる。 ④上記①～③を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解できるようになる。			◎		○			
	子どもの健康と安全	①子どもの健康状態を常に把握し、異常の早期発見、病気の予防、健康教育および応急処置や看護について理解し、実践できる知識と技術を習得することができる。 ②子どもの安全に留意し、事故防止および安全な保育環境についての知識と技術を習得することができる。 ③養育環境と心の健康問題などは地域保健活動との連携のもと、実践力を身に付けることができる。		◎						○
	障害児保育Ⅰ	①障害児保育を支える理念や歴史の変遷について学び、障害児及びその保育について理解できるようになる。 ②障害児その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解できるようになる。 ③障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解できるようになる。		◎		○				
	障害児保育Ⅱ	①個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解できるようになる。 ②障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解できるようになる。						◎		○
	子育て支援	①子育て支援の意義と原則について学び、子育て支援の基本を理解できるようになる。 ②子育て支援の実践を学び、内容や方法を理解すると共に実践力が持てるようになる。	◎		○	◎				
	保育実習Ⅰ（保育所）	①保育所の役割や機能を具体的に理解できるようになる。 ②観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深めることができるようになる。 ③既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解できるようになる。 ④保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解できるようになる。 ⑤保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解できるようになる。	◎		○					
	保育実習Ⅰ（施設）	①児童福祉施設の内容、機能等を実践現場での体験を通して理解できる。 ②既習の教科目全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用力を養うことができる。 ③保育士としての職業倫理と子どもの最善の利益の具体化について学ぶことができる。	○			◎	○	○	○	
	保育実習指導Ⅰ（事前）	①保育実習の意義・目的を理解できるようになる。 ②実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にすることができるようになる。 ③実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解できるようになる。 ④実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解できるようになる。	◎		○					
	保育実習指導Ⅰ（事後）	①保育実習Ⅱで学んだことを土台とし、保育者としての知識、技術を身に付けることができるようになる。 ②実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にすることができるようになる。						◎		○
	食育論（子どもと食生活）	①食育の必要性を理解することができる。 ②子どもの食と健康の現状を理解することができる。 ③バランスのよい食事のあり方を理解することができる。 ④食事と心の健康の関連性について理解することができる。 ⑤子どもに対する食育の重要性を理解することができる。	◎						◎	
	在宅保育	①在宅保育の意義を理解し、保育所保育との違いを理解する。 ②乳児の発達をふまえ、発達に即した生活や遊びについて考えることができる。							○	◎
	造形表現研究	保育者としての造形表現力を深め、子どもの造形表現活動の援助に必要な実践力を身に付けることができる。			◎				○	

2025年度入学生 幼児教育学科カリキュラムマップ

分類	授業科目名	授業科目の到達目標	幼児教育学科の学修成果 (◎＝達成のために、特に重要な事項 ○＝達成のために、重要な事項)							
			1-1	1-2	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3
			現代の幼児教育・保育を支える幅広い教養や知識・技能を有している。	子どもの年齢や発達過程を理解し、総合的な心身の発育を促すための知識・技能を有している。	幼児教育・保育の実践を行うために必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力の基礎を有している。	幼児教育・保育に関する課題解決に向けて、様々な情報を統合し、論理的な思考や創造的な活動ができる。	保育者として、また社会の一員としての自覚に基づいた創造的能力を備えている。	幼児教育・保育に関わる熱意と責任感、倫理観を有している。	幼児教育・保育に関わる様々な人々とコミュニケーションをとり、連携・協働することができる。	幼児教育・保育に関して、生涯にわたって学び続ける姿勢を有している。
保育に関する専門科目	保育実習Ⅱ	①保育所の役割や機能について、具体的な実践を通して理解を深めることができるようになる。 ②子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して、保育の理解を深めることができるようになる。 ③既習の教科目や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び子育て支援について総合的に理解できるようになる。 ④保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について、実際に取り組み、理解を深めることができるようになる。 ⑤保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結びつけて理解することができるようになる。 ⑥実習における自己の課題を明確化することができるようになる。			○			◎		
	保育実習Ⅲ	①児童福祉施設(保育所以外)、その他社会福祉施設の養護を実践に実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を習得することができる。 ②家族と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を養うことができる。			◎			○		
	保育実習指導Ⅱ	①保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解できるようになる。 ②実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得できるようになる。 ③保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解できるようになる。 ④保育士の専門性と職業倫理について理解できるようになる。 ⑤実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にできるようになる。			◎			○		
	保育実習指導Ⅲ	保育所以外の児童福祉施設への就職を希望する学生を対象とするために、即戦力となる現場での実践力と施設養護の最新の知識を身に付けることができる。	○				○	◎	○	○